

ホクレン営農支援情報

(2020年9月号)

●馬鈴しょ育成系統の現地試験圃場を巡回調査 《恵庭研究農場 畑作物開発課》

恵庭研究農場では馬鈴しょの品種開発に取り組んでいますが、有望な品種候補は地域適応性試験（現地試験）に供試されます。この現地試験は多くのJAや生産者のご協力のもとで実施しています。

本年も7月下旬から生産現場に伺い、現地試験圃場の調査を行いました。今後も引き続き、有望系統の評価や育成を進め、より良い品種をいち早く生産者の皆さんにお届けできるよう取り組んでいきます。



●第1回後志管内スマート農業推進会議で講演 《倶知安支所 営農支援室》

8月7日に後志総合振興局主催で「第1回後志管内スマート農業推進会議」が開催され、市町村・JA・農業機械メーカー・行政関係機関ら42名が参加しました。

会議では、北海道や後志管内のスマート農業の状況のほか、後志農業改良普及センターからの「RTK-GNSS自動操舵補助システムの導入効果検証」、JAようていの「ホクレンRTKシステム導入経過」、蘭越町の「水稻のドローンリモートセンシングによる実証」などの取り組み紹介が行われ、倶知安支所営農支援室から「ホクレンRTKシステム概要」を説明しました。

後志管内でもスマート農業への取り組みが徐々に進んでおり、今後の方向性などについての意見交換も行われました。なお、本年秋に次回の開催が予定されています。



● 標準作業手順書 (SOP) 作成の取り組み 《訓子府実証農場 畜産技術課》

訓子府実証農場の乳牛部門は作業に携わる人数も多く、作業方法の統一（標準化）が課題でした。そこで、デンマークの機関が作った酪農に関する標準作業手順書（SOP）を日本版にした「デーリィ Navi」をひな型に、子牛管理の手順書を当農場の状況に合わせて作成し活用しています。

作成する過程では望ましい作業の進め方などをあらためて皆で確認し、共有することができました。

この内容はアグリポート 27 号（10 月発行）でも紹介する予定です。なお、「デーリィ Navi」は釧路農協連の HP のブログから入手できます。



● 収量センサー付きコンバインの圃場特性把握などへの活用 《訓子府実証農場

農産技術課》

8月3日、ホクレン訓子府実証農場の試験圃場において、きたみらい麦作振興会やJAきたみらいと連携のうえ、昨年に引き続き収量センサー付きのコンバインを使い、秋まき小麦（きたほなみ）を収穫しました。

昨年は収量センサーからのデータを使って収量マップを作成し、圃場内の部分ごとの収量を見える化できました（図1）。また、センサーにより得られた収量を、同じ地点での手刈調査による収量と比較したところ、高い相関が見られました（図2）。

今年収穫した圃場についても収量センサーで得られたデータを活用し、①収量マップを利用した圃場特性の把握や、②次年度作付品目の施肥検討などへの利用を進めたいと考えています。

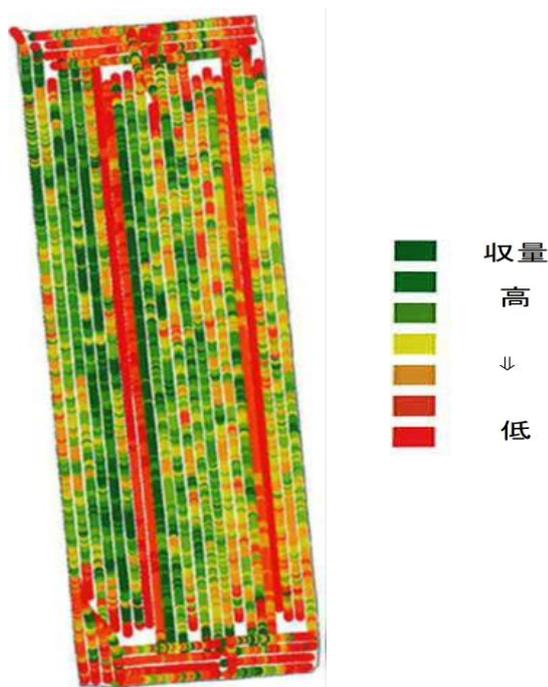


図1. 収量センサー付きコンバインによる収量マップ
(2019年調査)

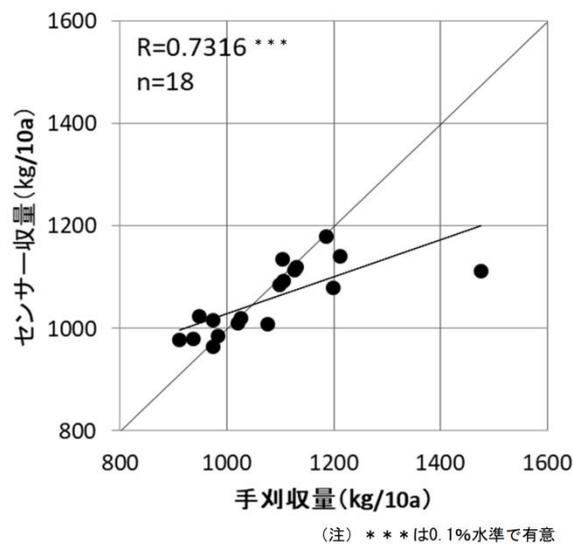


図2. センサー収量と手刈収量との関係（2019年）

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp